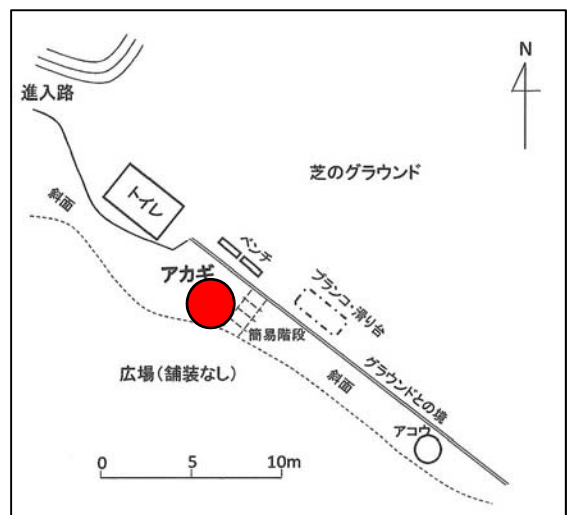


アカギ



樹種名	アカギ	科名	コミカンソウ科	方言名	アカギ	学名	<i>Bischofia javanica</i>				
形状・寸法	樹高 13 m	胸高周囲 5.5 m	根本周囲 7.6 m	樹幹占有面積 317 m ²							
	枝下高 1.7 m	枝張 東 11.2 m 西 7.7 m	南 11.1 m 北 10.2 m	最大樹冠幅 21.3 m							
通称	アカギ	樹齡	120 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 其他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 其他民有 9 不明						
所在地	今帰仁村字与那嶺119			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)										
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()				平均気温(°C)	16.7	16.1	18.1	22.7	25.3	28.1
周囲の状況	1 平地(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			地点:名護	平均気温(°C)	29.6	29.4	28.2	27.4	22.3	19.8
	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()				2016年	降水量(mm)	101	172	359	139	118
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 や強く受ける 5 強く受ける(特記)						
	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他				日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良					
土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			周辺樹木の状況	周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))					
	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない				周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくなきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している 4 踏圧あり b 踏圧なし					
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他						
過去の治療歴と内容	大枝基部の空洞部が石でふさがれ、枯死枝の切り口にモルタルの塗布痕が見られる。						
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明						
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)						
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイシ、リュウキュウマツタ、オオタマノコ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他						

地上部の衰退度判定

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し、被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ジョウ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.18

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

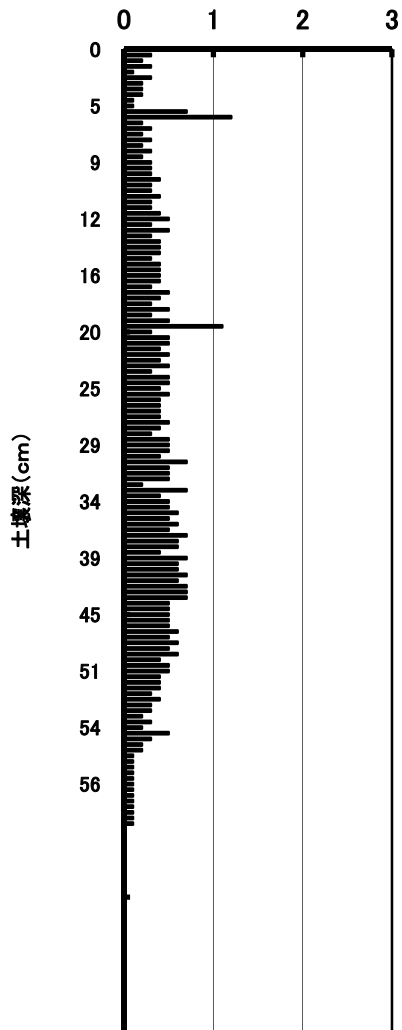
項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係				
根返り				
幹折れ				
大枝折れ				
中・小枝落下				
幹の傾斜の増大				
その他				

土壤調査結果(認定番号 26)

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5YR5/5	0-12	—	砂壤土	8.17	8.8
II	7.5YR4/5	12-19	—	砂壤土		
III	—	19-26	—	アスファルト片		
IV	7.5YR6/5	26-33	—	埴壤土		
V	7.5YR4/4	33-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果

貫入量(cm)



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・幅の狭い斜面に生育する。 ・地表はサンゴ石灰石の礫で被覆され、その下部は島尻マーヅである。 ・斜面上部は切土で、国頭マーヅで客土され、小公園(ゲートボール場)となっており、土壌は著しく固結している。 ・下部は畑地をコーラルで客土し、碎石、砂の置き場となっている。固結が著しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面上部の縁石を撤去したうえ、広場および下部の資材置き場の透水性、排水性に乏しい一部の客土層を剥ぎ取り、膨軟な土壌で埋め戻すことを検討する。 ・樹冠外縁に柵の設置、及び柵内への立ち入り制限を検討する。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・不定根は見られない。 ・西側の地際部に空洞が認められる。 ・南～南西側のルートカラー部に空洞があり、石で塞がれている。 ・鋼棒貫入異常は概ね認められない。 ・斜面と斜面上部に敷設された縁石に沿って露出根がみられるが、太さとして10年以下の若い根と思われる。 ・上部の縁石を超えての露出根は認められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・北側高さ1.4mに縦4cm、横6cm、深さ3cmの空洞があり、アリの巣となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・西側の大枝基部に石で塞がれた空洞が見られる。(長さ40cm、幅20cm)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
	<ul style="list-style-type: none"> ・北側の中枝の基部に腐朽がみられる。その上部はモルタルで塞いだ治療痕がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐朽部の詳細な調査が必要と考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小枝の枯れが目立つ。新しい小枝は枯死が多く、葉量も乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・古い葉はやや小型化している。新梢先端の葉は葉縁部が赤味を帯び、著しく小型化し、かつ固い。先端部ほど小型化が著しい。土壌水分の慢性的な欠乏が原因と推察される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「土壌」の対応と同様。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・病害の兆候は認められない。 ・最近、急激に衰弱が進行したとされる(区長)。葉の矮小化の進行から根系の異常が考えられる。 	

